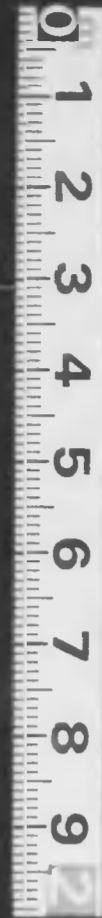


週寫眞  
報

情報局編輯  
三月三日・第二六一一號・第七十



『太平洋戦線のもつとも重要な作戦は  
日本自身の空の上に展開されるであらう』と

ルーズヴェルトがわめいてるる

待つあるを待むわれらに

何の威嚇となるだらう

われらの水と砂と蕙と

鬪魂とで

見事に一泡ふかしてやらう

「時立の札」に載る大規模な空襲の模様

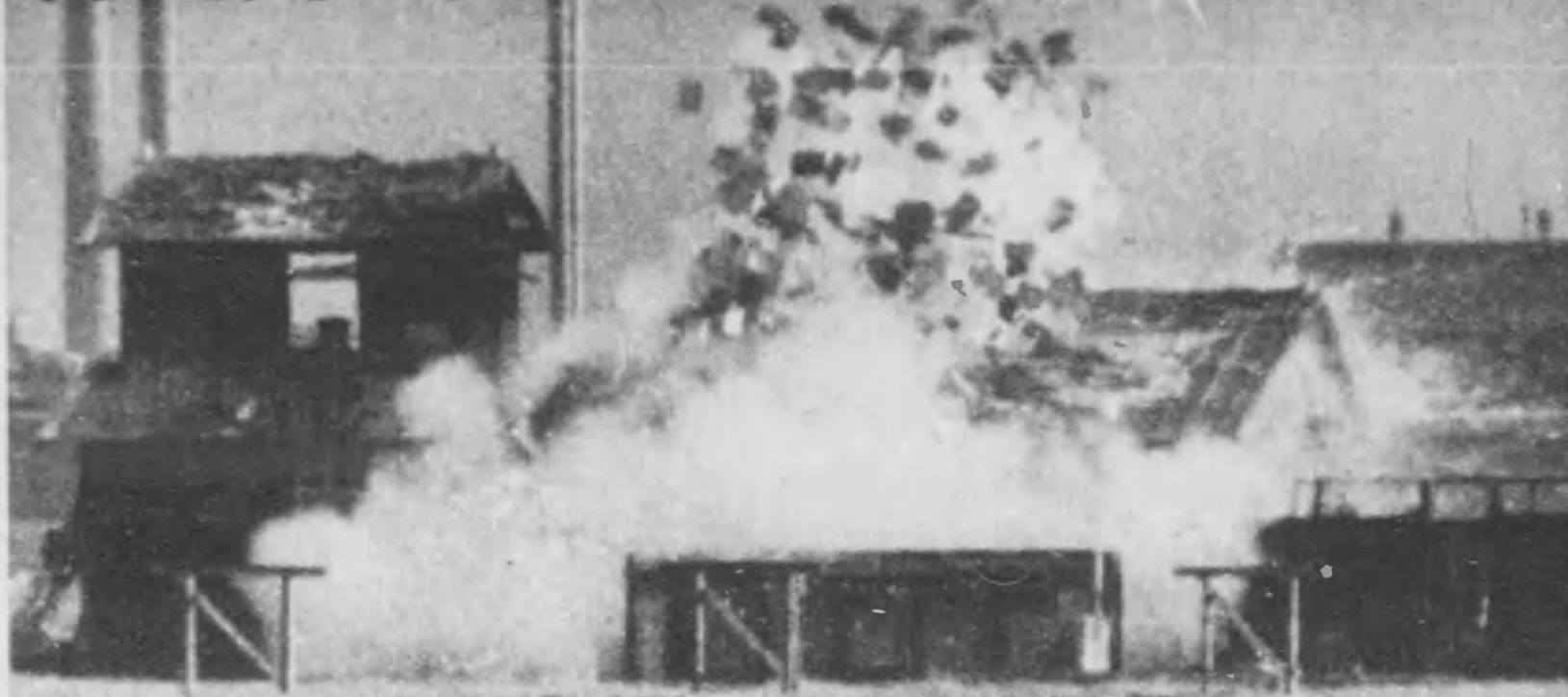


# 大規模な空襲の模様

大阪新淀川公園における五十キロ黄燐焼夷弾炸裂の瞬間。炸薬の爆発とともに黄燐も爆発燃焼して白煙をあげ、火沫は七十メートル附近まで飛散した。

撮影  
大阪新聞社  
小石  
中藤  
教清

# 大規模焼夷弾が消滅した



—阪大— 米國大規模焼夷弾の威力と消火の試験

【青洲二十キロ焼夷弾の瞬間】  
 青洲二十キロ焼夷弾および同五十キロ焼夷弾を假設家屋内に爆発させ、隣組員による消火状況を調べてみる。先づ最初は平屋建六層の間に二十キロ焼夷弾を爆発させた。炸裂した瞬間、大なる白煙が天に押し、建物は大破、いかにも大火災のやうな観を呈したが、男女十一人の協力で直ちに消火、手際よく消火に努めた結果、水を約五十斗、砂若干、膏口二本、火叩き五本を用ひ、實際の消火活動は一、五十秒で消火してゐる。これをもし出動が遅れた場合はどうか。平屋建六層の間に五十キロ焼夷弾を爆発させたところ大音響とともに猛烈な白煙をあげて家屋は倒壊した。爆発一分後に男女十一人の隣組員が消防活動に移り、バケツ注水と小型ポンプの消火によつて大火までには五分十四秒を費してゐるのである。なほこれに使用した消防資材は水七斗四升、膏口三本、火叩き五本であつた。



敵は昨年四月十八日の日本本土空襲の経験に基づき、あらゆる角度から有効な空襲方法を研究してゐるといふは、なかでも最も警戒を要する點は、今後恐らく二十キロ程度以上のいはゆる大規模焼夷弾の威力を試みようとするといふことだといふまでもなく、木造建物の多いわが國にとつて、焼夷弾は最大の敵であるが、果して敵焼夷弾は敵の夢想する如く東京や大阪などを焦土と化すことができるだらうか。われわれはまづ今後使用を豫想されるこの未知未見の大規模焼夷弾の正體を正しく見極めるとともに、これに對する萬全の防衛態勢を確立しておくことが絶対に必要だ。

日本産業經濟の中心である大阪では、府市共備で二月十四日、大阪師團指導の下に大阪新淀川公園に木造瓦葺家屋三棟四戸をはじめ着火試験五十キロ焼夷弾（左）及び油脂焼夷弾（右）の實物。大規模焼夷弾は焼夷の弾頭の内部に黄燐を埋めたもので、黄燐とは常温では黄色の固形物である。空気に觸れると自分から着火する性質があるので、普通は水中に保存しておく。燃焼の際には熔けて青白い光を放つが、再び水中に入れると消火して常態に戻る。有毒で皮膚に附着すると悪性の火傷をうけるから、消火の際は皮膚を露出しないやうに注意しなければならぬ。この種の焼夷弾は落下して物にぶつかると信管が働き、炸薬が爆発して内部の黄燐を飛散させる。また油脂焼夷弾は同じく焼夷の弾頭の内部に固形油またはベンゾールを埋めたもので、油脂の燃焼を助けるため弾頭部と弾體の間にアルミナが埋めてある。落下して物にぶつかると信管が働き、アルミナが着火剤を溶かして着火する。

敵は、試験の結果より得た大規模焼夷弾に對する大體の對策を述べて一億必勝の構へを維持しよう。

一 敢闘精神の昂揚  
 どんな優秀な資材や器具を持つてゐても敢闘精神が缺けてをれば火勢に負けて小事も大事に至る結果となる。火焔はどんなに猛烈であつても、これは駄目だと早合點せず、無身火點に突進して敢闘すれば絕對鎮壓できるのである。

二 防火用水の多量確保  
 水はすべての焼夷弾による火災の延焼防止上、最も有効である。特にこれまで無効と認められてゐた油煎焼夷弾に對しても有効であり、この點、従来の觀念を修正しなければならぬ。防火用水はできるだけ澤山欲しいのであるが、大體の標準とし



【油脂二十キロ焼夷弾の瞬間】  
 油脂二十キロ焼夷弾をせらく假設家屋内に爆発させ、隣組員による消火状況を調べてみる。まづ二階六層の間に爆発させた二十キロ焼夷弾では着火と同時に二階側の壁は吹飛び猛烈な黒煙を吹き出したが、男女十一人の協力で着火後十秒以内に出動して消火に努めた結果、二分五十秒で鎮火、これに要した資材は水が一石五斗、砂若干であつた。次いで行はれた二階建下六層の間における五十キロ焼夷弾の消火活動では、着火と同時に大音響とともに天井が吹飛び室内は一面火の海となつて猛烈な黒煙を吹き出したが、この火勢にひるまず男女十一人が協力して一分後活動を開始した結果、實際消火時間三分三十五秒で鎮火してゐる。これに要した水は約二石二斗であつた。



【油脂五十キロ焼夷弾約三分後の消火活動】  
 材料、待避壕その他動物的の試験用材料設備をとり、支那前線で押収した米軍焼夷弾を使用して、これに對する威力實驗と隣組防空群の挺身作業による防火實驗を行ひ、種々貴重な記録を収めたが、この實驗の結果、大規模焼夷弾による火災といへども各人が必勝の信念をもつて協力一致、集團の能力を發揮して敢闘するならば、斷じて必滅し得るものであることが三十万觀衆の前に實證された。

以下、試験の結果より得た大規模焼夷弾に對する大體の對策を述べて一億必勝の構へを維持しよう。

一 敢闘精神の昂揚  
 どんな優秀な資材や器具を持つてゐても敢闘精神が缺けてをれば火勢に負けて小事も大事に至る結果となる。火焔はどんなに猛烈であつても、これは駄目だと早合點せず、無身火點に突進して敢闘すれば絕對鎮壓できるのである。

二 防火用水の多量確保  
 水はすべての焼夷弾による火災の延焼防止上、最も有効である。特にこれまで無効と認められてゐた油煎焼夷弾に對しても有効であり、この點、従来の觀念を修正しなければならぬ。防火用水はできるだけ澤山欲しいのであるが、大體の標準とし

黄燐二十キロ弾および五十キロ弾を野外で爆破させ、その附近においた種々な供試材料に及ぼす威力を試して見る。まづ二十キロ弾では火法は五十メートル附近まで飛ぶ。五十メートル以内の可燃物、即ち障子、窓等は全部着火してゐるが、ガラス戸、板戸には火法が着いても着火してゐない。なほ十メートル以内供試された衣類は黄燐の附着した部分が焦げてをり、また五メートル以内供試された衣類は生命には別害なく、二十メートル距離の兎は何等異常な状態がなかつた。次いで行はれた五十キロ弾の試験では、火法は七十メートル附近まで飛び、二十五メートル以内の障子、窓等は殆んど着火したが、雨戸、羽目板は火法の着いたところだけが黒焦げの程度で火災は起してゐない。ガラス戸は爆風によつて殆んど破れてゐる。なほ十メートルの地点に供試された兎は半身に火傷を負つて痛死の重傷を負つたが、二十メートルでは兎が別の火傷を負つた程度で生命には別害がなかつた。



黄燐五十キロ弾爆発後十メートルの地点に供試された雨戸、ガラス戸の被害状況



黄燐二十キロ弾爆発後十メートルの地点に供試した衣類の被害状況



黄燐二十キロ弾爆発後十メートルの地点に供試した衣類の被害状況



て各建物毎に延焼十五坪未満は百リットル（五斗五升）以上を、十五坪以上は概ね十坪につき五十リットル宛増加する必要がある。この外に隣組として一方五メートル以上の水を準備して置く。と同時に、参加の者が一時的に力を合せて注水するため一層数多くのバケツを用意しなればならない。

**三 大型油脂焼夷弾の消火方法**

まづ燃え移らうとするところに水をかけて火焔の擴がるのを防ぎ、水に燃えてゐる箇所に周囲から逐次水をかけて火勢を抑へ、最後に着火点には濡漚または土砂を被せて消火する。消火に當つては手袋、足袋等を用ひ、皮膚を露出しないやうに注意する。

**四 大型黄燐焼夷弾の消火方法**

周囲に水を注ぐことは油脂弾の場合と同様であるが、着火点に黄燐が積つて盛んに燃えてゐる場合には、まづこれに水をかけて延焼防止に努め、順次小さな火點の消火を行ふ。火力の小さな火點の消火には火叩きが有効である。黄燐焼夷弾の煙は短時間の吸入では生理的に殆んど害はないが、猛烈な白煙を吐くから、消火に出動する者は濡手拭を用意するとよい。また絶対に皮膚を露出してはいけな。黄燐は飛散したのち木材の割れ目や釘穴に侵入して再燃するものがあるから、焼き捨てるなり、洗ふなり、削ぎ取るなり事後處理が必要である。なほ着火點附近にある大部の黄燐は次ぎの方法でこれを處置する。

**五 防空待避所の設置**

大型黄燐焼夷弾は破壊力を伴ふから、これによる危害を防ぐためにも重要地域の家庭にはせひ待避所を設けなければならぬ。だが、いふまでもなく待避所とは、無用の傷害を避けるとともに防空戦闘への構への場所である。従つて焼夷弾が落ちた時には被爆し出動して消防活動に着手することこそ最も肝要であるといはなければならぬ。

以上の措置を的確にのみこんでこそ大型焼夷弾の威力も恐るゝに足らず、また必勝の信念も振ひ起されるわけである。

**大型焼夷弾の威力**

油脂二十キロ弾および五十キロ弾を野外で爆破させ、中心から五メートル乃至十メートルの地点に置いた種々の物料に及ぼす威力を試して見る。まづ二十キロ弾では火法は七メートル附近まで飛び、五メートル以内の可燃物、即ち障子、窓、濡漚等は着火してゐるが、ガラス戸、板戸には着火してゐない。また五メートル以内供試された兎は軽い火傷を負つた程度であり、十メートルの地点では異常な状態がなかつた。次いで行はれた五十キロ弾の試験では火法は十一メートルまで飛び、五メートル以内の供試材料は全部着火。兎は半身に火傷を負つた。



油脂五十キロ弾爆発後十メートルの地点における状況



油脂二十キロ弾爆発後十メートルの地点における状況



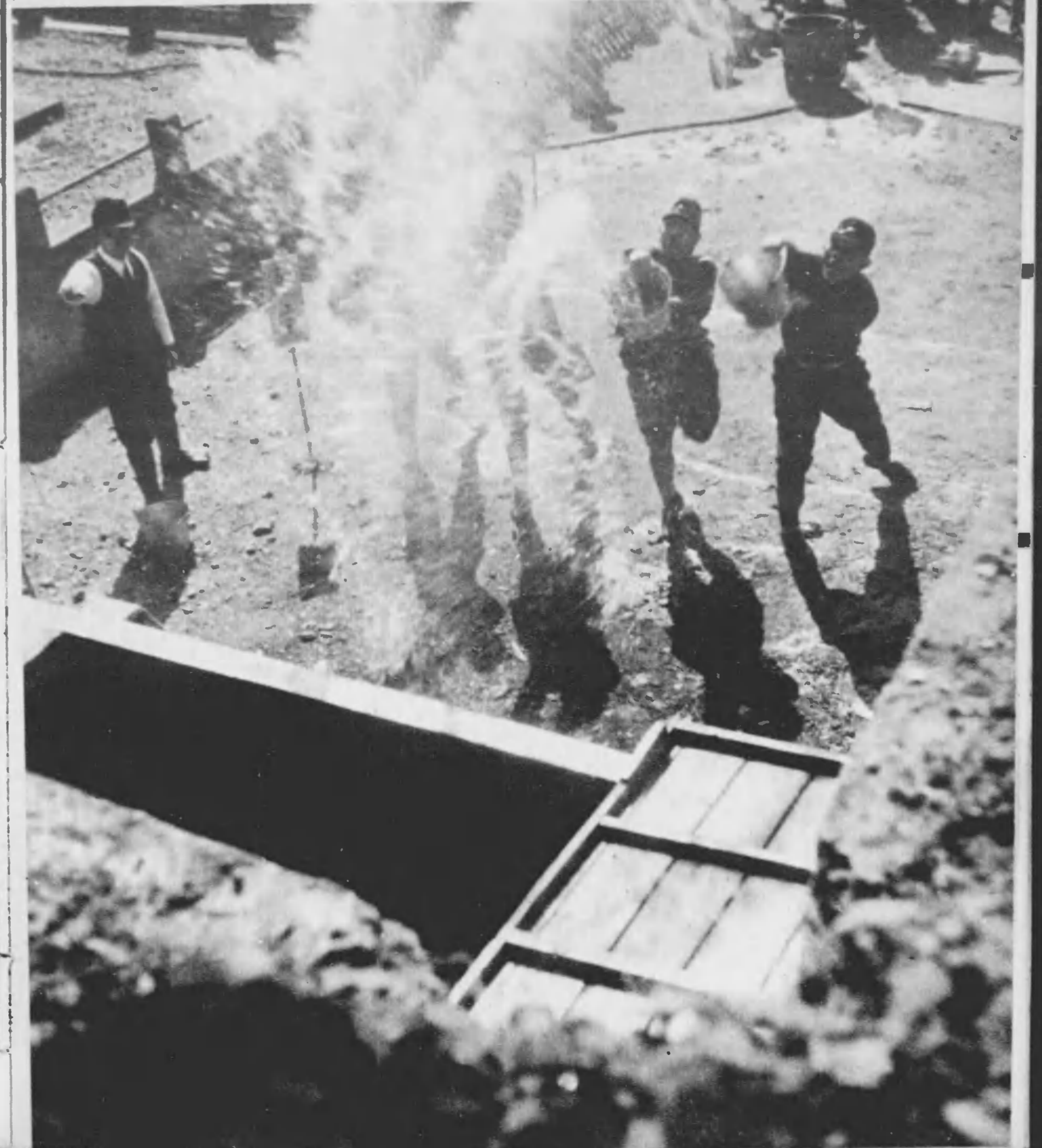
平屋六疊の間に油脂五十キロ弾を炸裂させ同室の待避所に見を供試したところ、この兎は一部に火傷を負つたが生命に別害はなかつた

# 防空指導者の養成

長崎縣防空學校

人口稠密の大都會が、軍事施設とともに直接空爆の對象となることは當然のことである。いま全國の主要都市には、大日本防空協會と各地方廳の手で、防空強化のための組織的な防空學校が續々と開設され始めてゐるが、長崎市にある長崎縣防空學校は、全國に冠して、すでに昭和十五年に開設され、設備、内容ともに日本一の防空學校として折紙をつけられてゐる。

長崎縣は支那大陸に最も近接してゐるため、大陸非占領地域からの敵空軍の進攻に對しては最も警戒しなければならぬ位置にある。だが、防空を強化するためには、先づ防空戰士の大



量養成が必要であり、これら養成された指導者を通じて、隣組の末端にまで防空を浸透させることが、何よりの早道であるといはねばならない。

長崎縣防空學校はいち早くこゝに着目して設けられたもので、これまでに四千名近い卒業者を防空陣營の第一線に送り出し、防空技術の向上に大きな成果を収めてゐる。

この防空學校は、長崎縣警察部長が校長を兼任、教官には陸軍將校、長崎醫大教授をはじめ、縣警察部の幹部がこれに當るほか、専任職員數名を置き、主として市町村吏員、警察官、警防團員、町會長、隣組長等民防の指導者を對象に、一回七十名程度を収容、防空理論、防空消防、防空監視、警報傳達、燈管機要、救護、防毒、防弾等にわたつて、四日間から六日間の教育を行ひ、搖ぎない民防の確立に必死の活動 を續けてゐる。

撮影 田中 善徳  
（長崎縣警察本部撮影課）

止血帯の結び方—先生は醫大教授の軍隊中尉との  
訓練に太陽を背にして侵入し  
緊張する防空



# 飯り握る護を空

練訓出炊常非の團年青子女屋古名

器具點檢を終つて出陣  
命令を待つて女隊



炊火を燃やす  
おぼつかないが  
おぼつかないが  
おぼつかないが



チロ／＼と燃える炊火、おぼつかないが  
おぼつかないが  
おぼつかないが



甲斐々々しく  
振つて連成の  
陣もきんかた  
かくなれば  
お手のもの  
か振りの  
数ふえてゆく  
見るとまに



非常時の炊出しは私連の手でと、名古屋女子青年隊幹部百二十名は寒風吹きすさぶ雑木  
林に進軍、名古屋陸大堀田博士の指導の下に、調理、調味方法、時間、栄養と非常炊出しに  
必要な知識とこつを得得しました  
あくまでも實戦に即して、自然の地形を利用して竈をきづき、あり合せの材料を生かし  
た副食物と、銃後の兵站線を承る乙女の意気も高々と、敵陣來れの自信を深めました  
おぼつかないが、訓練を終つた乙女達は試食の味に舌鼓を打つて  
山田 新治





# 雛祭

京 東



日本の相模会は今年の雛祭は、雛組でしませうと相模会友を呼びつけ、ここに雛組お人形さんです。お人形さん作ってゐるのはお姉ちゃんたちです。

雛祭といつて昔のついでに、あまり芳しくありません。雛組に飾られた雛の花ですべてが、いひつくされてゐます。



小布瀬さんの会場をめぐり、いよいよ趣向をこらして作ったお雛さまやお人形さん、さしては手風琴まで、お雛さまと一緒です。

雛組に飾られた手製のお人形やお雛さま、お雛さまや四世などは、お母さんのお指圖を受けて、お雛さまのお兄ちゃんや、お雛組から出でてゐるお雛さまを、お雛組さんに送られます。



私どもは祖から幾つもの美しい行事を傳へられました。雛祭もその中の一つです。しかし、今までのやうに華美に流れた雛祭は、國を擧げて戦つてゐる現在には、あまり相應しいものとはいへないでせう。

雛祭に現はれた女の生活は、かくありたいといふ心の願ひには變りありませんが、大日本婦人會本部では、決戦下雛祭の一つの例として、雛組單位の雛祭を奨励してゐます。

これは雛組または班の中から、適當な家を一新会場と決め、各家からお雛さまやお人形、或は手製の雛人形を持寄つて、子供たちの將來を祝ひながら雛組の親睦をも兼ねた楽しい集りにしようといふものです。まことに決戦下に相應しい雛祭ではありませんか。

こゝに掲げたお雛祭は、東京市小石川區豊川班第十二雛組の子供さんを中心にした雛組の雛祭です。

雛組にはお手製のお雛さまやお人形が、素材の中にもお雛さまを演じてゐます。その前にお雛さまやボク、ワシたちがお雛さまで、お姉さんの手風琴に合せました。お母さんたち、お雛組にうれし



戦場通信 第一の通信 齋藤 芳郎

第一信 サントトマスにて 十二月二十六日

お母さん

私等砲兵隊は今日の午後四時頃こま...

暗くなつてから風が出てきました。この...

少少の孔をたたくに夢まかりかへり、船は...

この粗末な造りの家の二つの室は、な...

一時事で船は完全に沈没しました。...

丁度十時頃でした。甲板に出て、真向ふ...

ボートが動され、それに兵隊達が乗込ん...

の室の一隅に、てかくと樹脂の塗られ...

待つてゐ、いゝものを聴かしてやるから...

私は裏手の井戸で水を汲み、皆と飯を炊...

私の側に横になつてゐる十四人の観測班...

私等は素の裸かになり、工兵隊と一緒に作...

翌日は朝のうち、遠くでしきりに機銃砲...

私等の部隊に配属された舟艇は僅かに三...







# 比島人俘虜の懐郷の郷



撮影 来住野壯三  
懐しい牧草所を  
あとに、それぞ  
れ故郷にかへる  
俘虜たち

を操縦せねばなりません。即ち、では私は  
等はサントーマス附近に揚陸した一部に  
追いつくやうに命令されてゐるので、  
輸送船が最大限陸岸に寄せられました。そ  
れでも千メートルはたつぷりあるのです。  
一隻の舟艇から二臺の車輪を押しあげた後  
は、海水に半身を浸らせながら、大きな舟艇  
の近づく僅かな時間をじりじりとした気持ち  
で待つてゐます。前線が一刻々々私等から遠  
ざかるといふ音は、幽きしりして足り  
ない無難なものです。

丁度八時頃、観測班の天花上等兵と辻上  
等兵が同時に腹痛を訴へ始め、二人とも海  
からあがつてくるなり、砂丘に倒れるやう  
に倒れ、胸を押へて唸りました。どうした  
のだと尋くと、何か知らぬが恐ろしく胃が  
痛くてたまらぬと言ふ。中隊の衛生兵を呼  
ぶと、中毒らしいと言ひ、直ぐ砂丘の陰の  
窪地に連れて行きました。間もなく倉島上  
等兵と萩原も腹痛が痛み出し、標かのまゝ窪  
地へよろめいて行き、武藤上等兵、神田兵  
長も次ぎ／＼に窪地へ這つて行くのです。  
私は薄気味悪くなつたので、海中と陸上の  
作業を交代して貰ひ、濡れた體を拭き、腹  
巻を締めました。冷えたのが不可なりと思

つたのです。しかし、再び私が装具置場か  
ら砂丘を登つて行く途中から、ちくり／＼  
と胃のあたりが痛み出し、そして何となく  
の車輪の背後に手をかけて、砂中にスリッ  
プの車を押し上げようとした瞬間、かつ  
と胸元から突きまけてくるものに目がくら  
むのを感じました。私は高い星が空を  
りと一瞬したやうに感じ、その場に倒れ  
て、名状することの出来ない不快感を感  
ぜ、じつと堪へようとすがすがしく、私は胃の  
痛の上にだら／＼と吐きながら、私は胃の  
あたりを締められるやうな激しい痛みを感  
じました。

このときと起り上らうとしたのですが、あ  
まの痛さに不甲斐なく、その場に立陣ん  
でしまいました。三村上等兵が直ぐ私を抱  
へてくれました。車輪の通る端に倒つて  
る譯にはゆかないのです。私は腹を吸ひし  
ばつて起ち上りました。そして砂丘を上つ  
て窪地へ行かうとしたが、間断なくさ  
こんでくる苦痛に阻まれ、一歩も前に進め  
ないと同時に、私を抱へてゐた三村上等兵  
もそのまゝげろ／＼と吐き始めるのです。  
窪地では、皆素つ裸かのまゝ、砂上に轉が  
り、掌を握り、或ひは砂の中に両手を突  
立てながら、身を練め、苦痛を堪へてゐま  
した。軍醫は衛生兵の持つたらふそくの光  
で私と三村上等兵を一瞥すると、私の腕を  
しつかと押へ、いゝか、夕食の牛肉の罐詰  
の中毒だ、直ぐ快くなるから我慢するんだ  
ぞ、と力をつけるのです。衛生兵が注射  
の用意をする間、私もほかの者も、窪地中  
をのたうち廻り、唸り聲をあけました。苦  
痛はいよいよ募り、私は五臓が無感覚にな  
るほど熱を帯びてくるのを感じました。し  
かし私は、苦痛で視力も感覚も奪はれなが

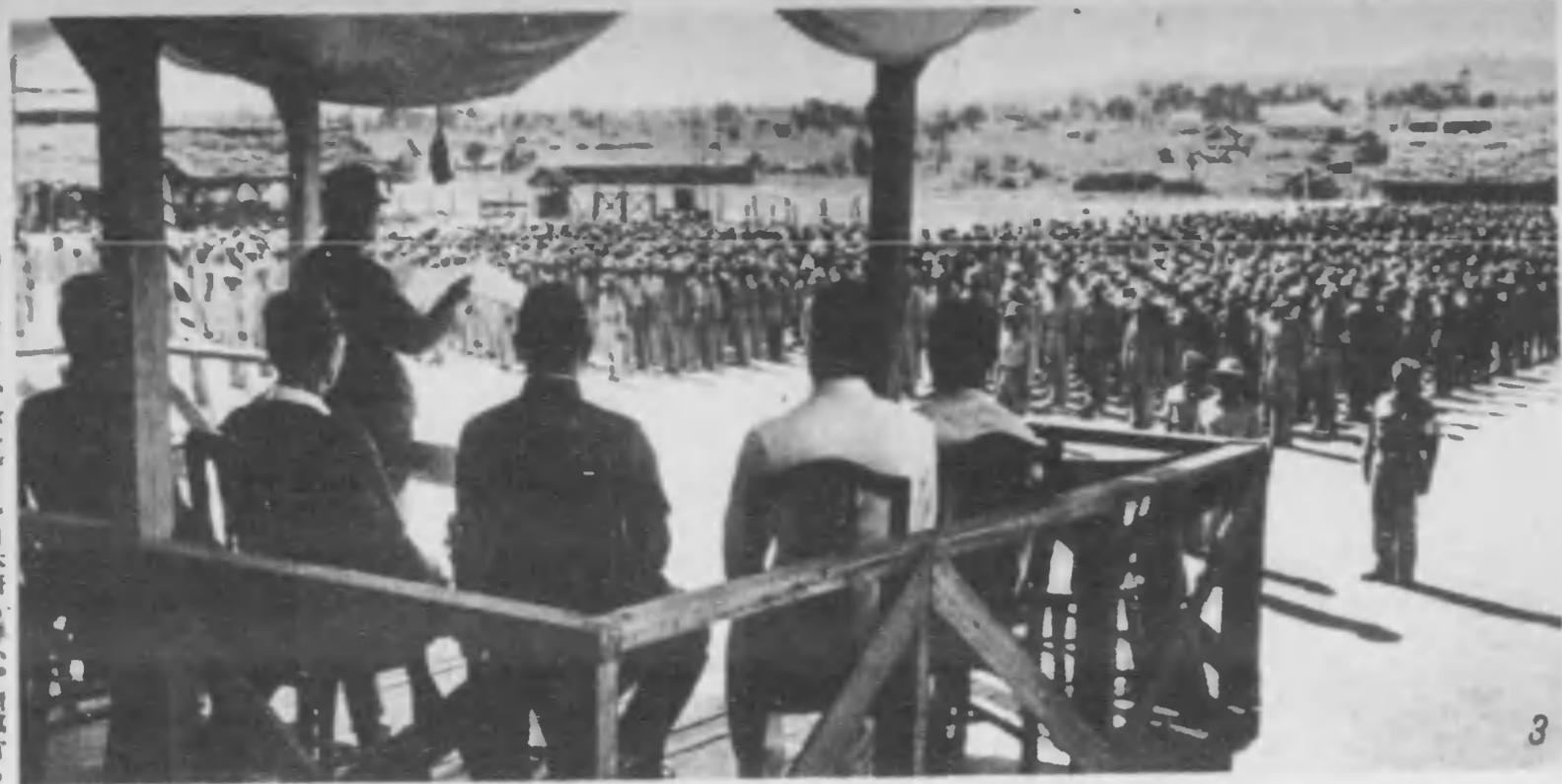
ら、意識は妙に鮮かに眼覚めてゐて、絶え  
ず、こゝは戦場だ、こゝは戦場だ、と叫ん  
でゐるのでした。そしてその叫び聲が恐ろ  
しい勢ひで私を絶望に陥れました。死の想  
念がちら／＼しました。死んでなるもの  
か、私の直ぐ頭の上を、砲車や車輪が、ぐわ  
ぐわ／＼と車輪を響かせながら、砂を蹴た  
てて進んで行きます。車上や牽引車の座席  
で、戦友等が緊張した顔と顔をつき合せ、  
興奮した語調でしきりに何事か話してゐま  
す。あゝ私は取巻かれるのだと思ひ、私は  
絶望しながら、それでも必死になつてその  
後を追ひかけようとした。

中隊長や、指揮小隊長の柴田中尉や、通信  
班の連中が小屋の中に居つてきた時に、  
私等は小康を得てゐました。しかしいくら  
努力しても、誰も一尺と起き上る氣力があ  
りませんでした。

私は疲勞困憊した體を床の上に横たへな  
がら、衛生兵の聲をきいて、床の下のく  
淡い光で、壁の古ぼけた聖母の像を見たと  
もなく見やり、譯もなくぼろ／＼と無念の  
涙の溢れ落ちるのを止めることが出来ませ  
んでした。

お母さん  
お母さんは、こんな私のみじめな苦痛の  
有様を讀んで立腹せう。書き續けてき  
た私自身でさへ、漸く生き復つたことの悦  
びよりも、こんな馬鹿げた苦痛に耐まれ  
たことが口惜しくてたまらぬのです。  
でもお母さん、私はお母さんになつた一  
言語りたいたことがあります。

それは、一人の兵隊が戦陣中、敵陣にあ  
たつて戦死することが、それだけでその兵  
隊が立派なのではない、名譽なのではな  
い、といふことです。彼が或る戦陣で、萬  
歳と叫んで息絶えるまでは、行軍で、或  
ひは射撃で、或ひはもつとそれ以前の行動  
において、如何に苦しみ、如何に死を準備  
しつゝあつたこととせう。私が腹痛で苦し  
むこと、これなぞ考へてみれば全く餘計な  
ことです。しかし、私は、これから先、私  
の前途に待構へてゐるであらう皆さんの  
戦陣のことを想像する時、そして私が若し  
陣にあつたお母さんのお志に報い得る瞬  
間のあることを想像する時、さうした餘計  
なことがらも、決して餘計なものではない  
と思はれるのです。



1「さあ、これからだ」修業證書を手にして、決意を語り合ふ  
2オールドネル教育隊の修業證書  
3参謀長代理の懇切な訓辭

「サヨナラ、バンザイ」日本語も鮮か。招旗官も



フィリピンの獨立は、決戦會議劈頭の東條内閣總理大臣の力強い聲明によつて再認識された。「フィリピンが更に積極的な協力を重ね、フィリピンの獨立がなるべく速かな時期に實現せんことを衷心から期待するものである。」この一語、一語がフィリピン全民族に與へた歡喜は大きい。アメリカの鐵鎖は絶たれた。しかも、やがて『東亞共榮團の一員』としておほらかな將來が約束されたのだ。アメリカの物質文明に奪められた心、物、形をかなぐり捨ててアジアへ復歸、更に獨立への強力な決意が、いまフィリピン全土を蔽つてゐる。

このほど比島兵俘虜最後の釋放として、約八百名が比島再建の意氣も高く、オールドネル教育隊を編立つた。悪鬼のやうな米兵に追ひまはされて抗戦の銃をとつたのもいまは夢、教育隊の訓練で、精神も、身體も、そして日本語も驚くほどの上達ぶりだ。息遣の手厚い待遇に心から謝辭をのべ、足どりも軽く故郷に急ぐ彼らの喜びこそ、フィリピンそのものの姿であらう。

各隊には婦人會も出動して、親切なもてなし喜びは一層深い。

# 椰子の島 椰子の実から

こんなに色々なものができます



パシフィック河を下つて椰子の實がマニラの加工場に運ばれる

山と積まれた椰子の實はまづ一つ一つの殻を割られる



フィリピン群島の半分が椰子林であるといはれるやうに、同群島における椰子加工業は産業経済の中心をなしてゐる。日一日と治安の回復してゆく昨今のフィリピンでは戦前にも増して椰子加工業が盛んになつてきた



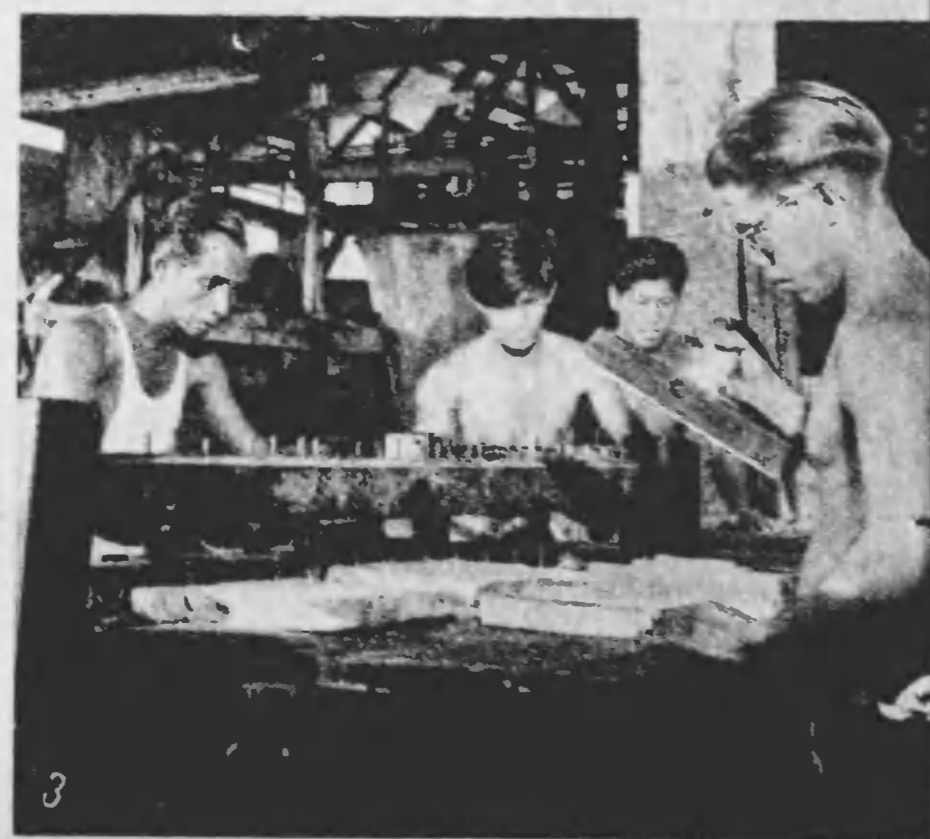
▲椰子の實—ココナツは三つの實に分けて加工される。一番の外皮は非常に強い繊維から成つた綿状のもので、これをペラペラにしてタハンや繩に纏つてマット及び袋を作る。二番目の皮は厚さ五ミリ程の硬い殻状のもので、木炭の原料となり、そのまゝ、食器などにも利用されてゐる。三番目の



乳質の部分こそ加工業中の生命ともいふべきもので、これをそのまま絞ればココナツ・ミルクがとれ、これをいぶしてコブラとし絞ればココナツ油がとれ、食用油となり、石鹼の原料ともなる。絞り粕はおいしい菓子の原料になるといふやうに、ココナツは捨てるどころの全くない果實である。また南方に作戦中の皇軍勇士の灼熱に焼けた咽喉を潤ほしてくれるのも、このおいしいココナツの汁であつた

撮影 石田承次郎

- 1 乳質の汁は絞られ、脱脂された。これがお菓子の原料となる
  - 2 おいしさうなココナツ・ミルクが造られてゐる
  - 3 コブラから石鹼が製造される
  - 4 椰子の實の繊維からはて置のやうな椰子ができる
- ↑ コブラから絞つた食用油は所飲いまでに並べられた





# 手切切



米英を  
僕等も駄手てる。  
切手買心

抽籤の済んだ切手は五枚以上まとめて郵便局へお差出しの上、特別据置貯金證書と引換へて下さい。

寫真週報 (禁輸載)

昭和三十八年三月三日印刷發行

編輯者

情報局

東京市墨田区水田町一丁目

印刷者

内閣印刷局

東京市墨田区八王子町

定 價

一部十錢 (送料一錢)

▲外部郵送は送料別

▲送料は送料別

▲郵料(送料)の割合を以て前金を込へ御申込み下さい。

▲特大版の場合は其の都度御申込金より差額をお付けします。

中 介 所

全国各地官報販賣所

書店・轉賣店

新聞販賣店

寫眞材料店

前編版に本誌をお読みになったら本誌を前編版に送りませう。送料は内地と同様に封封ありは別封にして郵料と切手すれば一冊送ります。

内閣印刷局印刷發行

寫真週報 昭和十七年三月三日 第三編版開始 昭和十七年三月五日發行 第一回本誌發行 第百六十一號

(本誌の印刷はA4用紙を以てはさき大の標準)